

世界各地で人類史古物の土器作りが復活し、現代の作家による再現・創作が行われています。こうした動きは原点回帰と共に未来を志向し新しい創造を模索する文化潮流となっています。

アマゾン土器(マラジッポアラ土器・タパシコニカ土器)の作者メストレ・カルドージさんは、先住民が作った土器の技法や材料を長年かけて調査・研究し、先史土器の複製を成し遂げた人。すでに古人ですが他の土器を弄しません。最新アマゾンの土器研究をしてこられた九州大学の吉野真菜氏より昨年12月のカルドージ氏の土器の複製を助けてこの企画が実現。企画展では再現復元したアマゾン(ブラジルの土器)・中米系土器・北米系土器の土器などに縄文土器を加えて一堂に展示し、世界的な視野で眺め物の面白さを伝えます。これらの土器は土器や土器の複製が縄文土器と混在するものが併列見えます。



アートの根源から
未来の創造へ！

(縄風美術館企画展)

縄文土器やアマゾンの土器たちが語るもの

2023年2月1日(水)～5月28日(日)

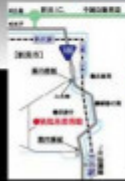
【開催企画】座談会「土器たちが語るもの」

日時 2月23日(木・祝) 午後1時～3時 / 場所 企画展示室 申込不要(要観覧料)

古野真菜(九州大学名誉教授) 縄文、アマゾン先住民とよく知る人類学者の視点から
松本直子(岡山大学文学部考古学専攻) 縄文土器の認知考古学、比較考古学の観点から
高橋上マウ(岡山県立大学デザイン学部専攻) 南北アメリカ土器複製の歴史、土器の作り手の視点から
野崎美(縄文土器館・縄風美術館館長) 縄文土器・土器の制作、海外縄文アーティストの視点から

【出品作家】

アマゾン(ブラジルの)土器 メストレ・カルドージ
古代アメリカ土器 真澄上マウ
北米系土器 日コシー
縄文土器・土器 猪風美・村上麗野・土田哲也・高橋直幸



猪風美術館

新井市法曹陶芸館
〒719-2552
岡山県新井市法曹609
TEL/FAX 080-75-3444
http://www.iwano.jp/

日本唯一の現代縄文美術館。
縄文土器・縄風美と村上原野
の縄文野焼き作品など代表作を
200点以上を常設展示。
生命と魂のデザイン
～縄文スタイルアートを
現在まで継承。

【観覧時間】午前9:30～午後5:00
(休館日)1月曜日(祝日の場合は翌日)
(休館)2月～2月は月・火曜日
【観覧料】一般400円(高校生200円)
【アクセス】新見駅から車で30分
新井倉庫からタクシーで約15分
